令和４年度　いのちの授業　事例集（幼稚園こども園）【その他】

掲載数 12

	地区	学年	教科等	テーマ	内　容	参考事項（講師・教材等）
1	横須賀市	幼複合	その他	食育・生命尊重	・米、サツマイモ、ジャガイモ、ナス、ピーマン、キュウリ、ゴーヤ等の作物の栽培・収穫活動を通して、四季の変化を感じ取るとともに収穫の喜びを味わうことで、自然への愛情や畏敬の念、自然の恵みへの感謝の気持ちや食への関心を抱くことができた。 ・コオロギやカマキリ、ザリガニなどの飼育・観察を通して、生き物のおもしろさやいのちの尊さに気づくことができた。	
2	横須賀市	幼複合	その他	健康	・マスクの着用やうがい・手洗いの励行、こまめなアルコール消毒など、新型コロナウィルス感染予防に関する注意事項を繰り返すことで、自分の命と健康を守る主体的な態度が身についてきた。	
3	中	幼複合	その他	ぽっかぽかファーム	今年度、地域の方のご厚意で園の隣の畑を貸していただいた。畑では、年間を通して野菜を栽培している。4月、年長児を中心にどんな野菜を育てたいか話し合い、地域の苗屋へ買い物へ行った。実際にスイカの苗を購入し自分たちで育て7月に試食をした。様々な野菜の種まきをし、苗を作り畑に植え替え栽培活動を行った。栽培活動を通し、地域の方とのふれあい、親子ふれあい活動を経験することができた。また、育てた野菜を試食をし「苦手だったけれど食べられた！」と苦手な食べ物を克服した幼児の姿が見られた。	年中・年長の複式学級
4	中	幼複合	その他	虫の飼育	園の周りには、山や小川があり里山の自然に囲まれている。昆虫も多く生息し、野原にはショウリョウバッタ、カマキリ、チョウチョ、トンボがいる。入園当初、虫に対して苦手意識があった園児がいた。バッタ探しや虫の飼育を通して虫に親しみ、自分の手の上にのせて遊ぶことができるようになった。虫を飼うだけでなく、虫の絵を描いたり虫になりきったりして遊ぶ姿が見られた。秋になり、数が少なくなり種類が変わってくると「どうしてだろう」と自分なりに考える場面が見られた。身近な生き物への興味から、数を数えたり、表現を楽しんだりし、幼児自身が興味関心を広げ、命とかかわりふれあうことができた。	年中・年長の複式学級

5	中	年中	その他	飼育栽培	１学期にクラス全員で花を育てた経験から今回は一人一人が植物の成長を見るとともに自然を思いやる気持ちをもってほしいと願い、１人１鉢でチューリップを育てることとなった。「自分の鉢」という特別感を味わっているが、水やり等の世話は疎かになりがちであった。そこで保育室に“チューリップの育て方”という掲示を用意し、育てるために必要なものとして①土②水③太陽④優しい心の４点を絵と写真で表すと「優しい心がなかったかも」と気付き、毎日気にかけて水やりをしたり、植木鉢に向かって話しかけたりする姿が見られるようになった。その頃芽が出始め、植物という生き物に対して優しい気持ちで接する姿勢や世話をする大切さを学ぶきっかけとなり、世話をしたからこそ生長した喜びを味わう経験となった。	
6	中	年長	その他	飼育	子どもが自分の家の近くの川で取ってきたカニを園に持ってくる。クラスで飼育することになり、図鑑やタブレットを見ながらえさを調べ、「鰹節たべているんだって」「野菜を食べるからウサギにあげる野菜を少し分け貰う」と言って自分達で調べ飼育をしていた。飼育をして３日程が経ち、朝になると動かなくなっていた。水を入れるも、これまでとは違い動く様子はなく、カニが死んでしまったことに気が付いた。子ども達から「カニさんのためにお墓を作りたい」という声が上がり、カニをこれからもずっと忘れないように、よく通る野菜の畑の隣にお墓を作ることになった。みんなで畑に行くたびに、お墓に手を合わせてから野菜の畑に行くようになった。また、どう育てていけばよいか考える様子もあり、生き物にも自分達と同じように大切な命が宿っていることを感じる経験になった。	
7	県西	年長	その他	かなへびの卵	５月下旬、「カナヘビを幼稚園で飼いたい。」と言って２匹飼うことにした。毎日エサ取りや水やりなどの世話をしていた。６月13日の朝、「カナヘビが卵産んでる。」「えー！」「どれ？」「５個ある。」と葉っぱをそっとどかしてみる。「卵が生まれたら別にするんだよ。」と別の飼育ケースに卵とカナヘビの部屋を分けていく。「卵の土はこのくらい。」と卵の部屋を作り、その上に印をつけ、１個ずつうつしていく。５個あったので、順番にうつす。保護者より「卵が乾かないように霧吹きしてね。あまりやるとかびちゃうから。」と子どもたちに分かりやすく話してもらった。卵が乾かないようにと聞いたり、教えてもらったりしたので子どもたちは、霧吹きを何度もしていた。毎日世話をしながら飼育ケースをのぞき込む子ども達の姿があった。７月19日の朝「あっ、赤ちゃんが４匹いる。」と孵化した喜びを感じ、「エサをとろう。」と自分たちができることを考えて世話をしていた。	飼育図鑑 保護者
8	県西	年長	その他	すいかを種から育ててみたい	「すいかを種から育ててみたい。」「大きいすいかを育ててみたい。」と子ども達の思いがあり、夏休み後に収穫できるように４月26日に大玉すいかの種を蒔いた。５月６日に発芽したがなかなか生長しないすいかの苗。「大きくならないね。」「いつ食べられるかな。」「大きくなぁれ！大きくなぁれ。」と水やりをしながらつぶやいていた。６月１日に畑に植え替える。その後も「大きくなぁれ！」と繰り返し水やりをしたものの、夏休み前までに実らず「いつ食べられるかなぁ。」と子ども達の不安と期待の気持ちが大きくなっていった。。夏休み中、７月27日頃から実りはじめ、８月の下旬、種から育てたスイカが6個実り、収穫の嬉しさや食べる喜びを味わっていた。	栽培図鑑

9	県西	幼複合	その他	大切なお米を守るために「かかし作りをとおして」	小学生の田植えの様子を見せてもらい、実際に園でも田植えをした。秋になり、お米が実りはじめ、嬉しそうに様子を見ていた子どもたちだったが、稲が鳥に食べられているのを見つけ、鳥よけの偽物のカラスに、米を守ってもらうことにした。散歩に出かけた際、小学生の植えた稲も鳥に食べられているのに気付いた子どもたちは、「かかしなら、きっと広い田んぼも守ってくれる」と、３・４・５歳児クラスで協力し、それぞれ想いのこもった３体のカカシを完成させて小学生にプレゼントした。米作りとかかし作りをとおして、お米を作ることの大変さや、お米を大切にする気持ちを感じることができた。	
10	県西	年中	その他	生き物の世話のしかた	おたまじゃくしを捕まえて育てることにした。図鑑を用意すると世話のしかたを自分たちで調べ、餌がわかるとそれぞれ家庭から持ち寄り成長を見守る姿があった。成長の過程で「手」や「足」が生える度に友だち同士で話し合ったり、保育者に発見を伝えたりと、一つひとつの成長を喜ぶ姿があった。カエルになった時に餌が生き物に変わることを発見し、餌が見つからずカエルは育てることが難しいことに気づいた。みんなで話し合い川に戻すことになり、側溝に逃がしてあげることになった。最後の一匹まで大切に育て、生き物を飼う楽しさや難しさ、わからないことは調べる等観察の仕方を知るきっかけにもなった。	おたまじゃくしの世話・生き物図鑑
11	県西	年少	その他	うさぎの世話をとおして	３歳児がうさぎの世話を始めた。水を換えたり、エサをあげたりと保育者と一緒に世話をすることを喜んでいた。初めは、うさぎとのかかわり方が分からず、乱暴に触ろうとしたり、ゲージの上に乗ったりする姿や、うさぎのフンを見て「くさい」「きたない」と言う姿があった。世話をする中で、「みんなと一緒でごはんをたくさん食べたからウンチが出たんだね」と様子を伝えていくと、子どもたちからマイナスな言葉が減り、うさぎを気にかける発言が聞かれるようになった。また、体を撫でたり手にエサをのせてあげたりと、うさぎへの優しいかかわり方が身についた。	特になし
12	県西	年少	その他	栽培活動	１学期に育てていたフウセンカズラやアサガオの種の収穫の時期を迎え、たくさんの種を採ることができた。一生懸命お世話をしていたＡ児。保護者にも種ができたことを話していた。たくさん採れたフウセンカズラの種は持ち帰ることにすると「やったー」と喜んでいた。持ち帰った次の日、「年中さんになって暖かくなったら蒔こうねってママと話したの」と嬉しそうだった。 年中児から、昨年育てていたチューリップの球根を引継ぎ、次はチューリップの球根を植え育てることになった。「何色が咲くかな」と楽しみにしていた。１学期の経験から、育てること、花が咲くことを楽しみに球根を植えた。	